

〈東北・新潟の活性化応援プログラム〉 2022年 助成団体活動成果レポート

特別助成団体

一般社団法人 子育てプラットフォーム MaRU

宮城県仙台市

プロジェクト名

まあるい子育て支援!「マタニティBOXから広がる子育てコミュニティづくり」

■地域の課題

年間500名の親子との対話を通して、「妊娠期から子育ての情報を得たかった」「妊娠期からつながりを持っていたかった」というママたちの声が多く寄せられました。さらに、コロナ禍により産婦人科などの母親学級が休止される中、不安を抱えたまま妊娠・出産を迎える女性がさらに増えています。

■当団体の紹介

子育て支援施設の運営などを通じて、親子がふれあう時間や子育て情報を提供しています。また、宮城県の子育て情報を集めた「マタニティBOX」を製作・配布することで、ママやそのご家族が出産前から各種支援や地元企業と継続的につながる機会を創出しています。これにより、地域と企業が一体となった子育て支援体制づくりを目指しています。





プロジェクトの概要

■背景・目的は？

コロナ禍により産婦人科などの母親学級が休止され、不安を抱えながら妊娠・出産を迎える女性がさらに増えたことを受け、宮城の子育て情報が分かる「マタニティBOX」の制作を行っています。現在は、ママたち自身が必要な情報を自分で探し出さなければ支援に行き着けない状況ですが、この「マタニティBOX」を開けば、必要な支援や地域企業の情報が一目で分かる内容となる予定です。

■具体的な活動は？

【活動の内容】

- 11月～3月
仕組みの構築、BOXの購入、協賛者への依頼とプレゼンテーション、ランディングページ(LDページ)の制作
- 4月～6月
BOXの撮影、協賛者からの物品受け取り、メディア発信
- 7月
主催フェスティバルでのお披露目贈呈式
- 7月～12月
毎月10～12人程度への抽選配布

【活動実績】

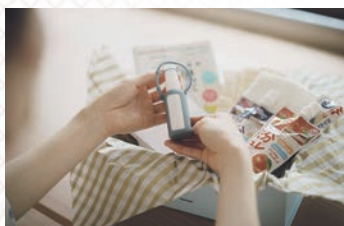
- ランディングページ: kosodate-maru.jp
- 協賛者: 17団体(企業、個人サロン、子育て支援者など)
- 当選者: 65名(うち配布完了者56名)
- アンケート: 配布から2か月以降にメールで協力依頼

【メディア実績】

- テレビ
CAT-V「みんなのてれび」、TBC「ひるまでウォッチン!」、電気新聞
- SNS
Instagram: @tipu.maru / @tsunagaru.kosodate

【利用者の声】

- 1人で子育てをしなくて良いんだよ、というメッセージが伝わり、気持ちが温くなりました。
- ママ目線だからこそこの“これがほしかった!知りたかった!”が詰まったBOXでした。



子育てに役立つアイテムを同梱



出産時の記録・足型シートも



マタニティBOX完成品



母親たちの不安を解消

■活動の成果は？

本プロジェクトを通じて、少しずつではありますが、妊娠中（または産後早い段階）のママに地域の情報や、子育てを応援する団体や企業の取り組みをお届けすることができました。また、直接手渡しすることで、「親切にしてもらえた」「話を聞いてもらって安心した」などの声をいただき、「孤独な子育てをなくし、地域一帯で子育てをする」という本プロジェクトおよび当法人の活動目的がママたちに届いていることを実感しました。

実際に、BOXを受け取ったママやそのご家族が協賛者のサロンを訪れるなど、「つながり」を持つきっかけにもなっています。また、当法人が運営する施設にも足を運び、同じように子育てをするママたちと出会う機会を得る方も増えています。

加えて、産後のママたちの協力を得てBOXの封入作業を行うことで、子育て世帯が次世代のママたちを応援するという、循環的な子育て支援の仕組みを構築する取り組みも始まっています。

実際にBOXを受け取ったママが、出産後に赤ちゃんを連れて施設を訪れ、BOXの封入作業に参加するケースも生まれています。「私も嬉しかったので、次の方にもぜひ楽しんでほしい」というような声をいただくことも増えました。

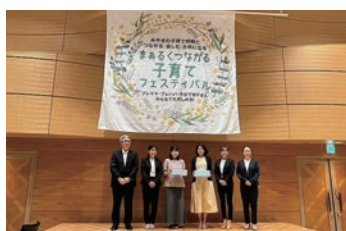
今回の助成金により、頭の中でイメージしていたプロジェクトをゼロから形にすることができました。特に、仕組みの構築に十分な時間をかけて準備を進めることができた点は非常に大きな成果でした。

また、協賛者を募りママたちへ発信するためには、広報活動用のランディングページ（LDページ）やリーフレットが必要でしたが、これらの制作には先行して資金が必要でした。助成金のおかげで、丁寧に準備を進めることができ、ママたちに共感性の高いクオリティの高いものを作ることができました。

さらに、このプロジェクトを通じて子育て世帯が直面する課題を再確認することができました。その結果、当法人の活動のあり方や目的についても、課題と目標がより明確になりました。



封入作業



贈呈式



配布風景



テレビ局の取材

団体からのコメント

テストスタートとして基盤の構築を目指し、本プロジェクトを実施しました。今後は以下の5点を目標に活動を進め、仙台市を中心に、他県でも関心を持ってもらえるような民間による産前子育て支援のモデルとなるよう努めていきたいと考えています。

1. 安定した普及の実現
2. 地元企業の協賛を増やす
3. 産婦人科や行政との連携を強化する
4. 配布人数を増やす
5. 産後ママとともに事務局を作る

本プロジェクトは、出産を控えたママやそのご家族に無料でプレゼントを行い、協賛者からの応援品と協賛金により運営する形をとっているため、財務面には課題があります。

また、配布する個数を増やすためには、協賛品の保管場所や人員の確保が必要になると考えています。

上記の課題を踏まえ、プロジェクトを安定的で充実したものにするためには、以下の取り組みが必要と考えています。

1. 実績データを把握し、ママたちのニーズは何かをまとめることで、子育てに関する課題を明確にすること
2. SNSの活用や産婦人科などの連携を強化し、認知度を向上させること
3. 協賛者にフィードバックを行い、協賛者にとってもさらに魅力的なプロジェクトにすること

これらの目標を達成することで、子育て支援をより良いものにし、地域や企業が「つながる」まあるい子育て支援の実現を目指してまいります。